

中部の

# エネルギーを 築いた

# 人々

## 福沢桃介の中部地方における 事業展開 その1

福沢桃介は1908(明治41)年から1928(昭和3)年の実業界を引退するまでの20年間、名古屋を中心とした中部圏に電気事業を始め電気製鉄、電気鉄道、電気化学工業など多くの企業を立ち上げ、中部経済圏の基礎を築きあげた。

福沢桃介が携わった中部地方の主な企業は、

- 1 電気事業：名古屋電灯、豊橋電気、矢作水力、白山水力、大阪送電、大同電力、濃飛電気、尾三水力、関西電気、東邦電力、神岡水電、天竜川電力、昭和電力
- 2 電気製鉄：電気製鋼所、木曽電気製鉄、大同製鋼、矢作製鉄
- 3 電気鉄道：愛知電気鉄道、東海道電気鉄道、北恵那鉄道
- 4 電気化学：東海曹達、昭和曹達、矢作工業
- 5 その他：東邦瓦斯、東海電極製造、大同肥料、名古屋セメント、名古屋栈橋倉庫など数多くある。

今回は、今までに述べていなかった北恵那鉄道、名古屋栈橋倉庫の概要を紹介する。



福沢桃介  
1868(明治元)～1938(昭和13)  
出典：福沢桃介翁伝

### 福沢桃介の全国事業展開

| 西 暦  | 和 暦  | 会 社 名                                                                                                                                                                 |
|------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1889 | 明治22 | 北海道炭礦鉄道株式会社に入社                                                                                                                                                        |
| 1895 | 明治28 | 北海道炭礦鉄道株式会社を辞任                                                                                                                                                        |
| 1898 | 明治31 | 王子製紙株式会社取締役就任、明治33年辞任<br>利根川水力電気株式会社発起人総代に選任、翌年、後の関東水力佐久発電所出願                                                                                                         |
| 1899 | 明治32 | 北海道オタワネ石油鉱の出願権取得を契約<br>丸三商店経営、翌年閉店                                                                                                                                    |
| 1901 | 明治34 | 北海道炭礦鉄道株式会社に再入社、明治39年辞任                                                                                                                                               |
| 1906 | 明治39 | 帝国人造肥料設立（根津嘉一郎、早川鉄治などと創立）<br>広滝水力電気の大株主（6,000株中1,500株取得）<br>北海道稚内市増幌に福沢農場開設<br>半田のカプトビールの経営に関し根津嘉一郎と意見が合わず15,000株を売却<br>東京地下鉄道設立出願、棄却<br>岡山県の鉱山を経営・瀬戸鉱山株式会社設立取締役社長に就任 |
| 1907 | 明治40 | 日清紡績を設立専務取締役就任、明治43年辞任                                                                                                                                                |
| 1908 | 明治41 | 豊橋電気株式会社取締役役に就任<br>大阪・泉尾土地大株主となる<br>高松電気軌道発起人                                                                                                                         |

|      |      |                                      |
|------|------|--------------------------------------|
| 1909 | 明治42 | 福博電気軌道会社設立取締役社長に就任                   |
|      |      | 高松瓦斯設立発起人                            |
| 1910 | 明治43 | 名古屋電灯株式会社の取締役（1月）、常務（5月）に就任          |
|      |      | 日本瓦斯会社創立、社長に就任                       |
|      |      | 九州電気株式会社取締役就任                        |
| 1911 | 明治44 | 四国水力電気株式会社取締役社長に就任、大正6年辞任            |
|      |      | 浜田電気株式会社取締役社長に就任、大正5年辞任              |
|      |      | 野田電気株式会社取締役社長に就任、大正5年に解散             |
|      |      | 唐津軌道会社設立し取締役就任、大正2年辞任                |
| 1912 | 明治45 | 千葉県選出衆議院議員に当選（政友会公認、大正3年解散し1期で政界断念）  |
|      |      | 九州電灯鉄道会社相談役就任                        |
|      |      | 佐世保電灯株式会社を設立し取締役社長に就任、大正2年辞任         |
| 1913 | 大正2  | 西部合同瓦斯会社（九州地方10社を合併）を創立し社長に就任        |
| 1914 | 大正3  | 愛知電気鉄道株式会社を設立、取締役社長に就任、大正6年辞任        |
|      |      | 名古屋電灯株式会社社長に就任                       |
| 1917 | 大正6  | 北陸電化株式会社（日本水力の前身）を設立                 |
|      |      | 電気製鋼所設立取締役社長に就任                      |
| 1918 | 大正7  | 東海電極製造株式会社を設立し相談役に就任                 |
|      |      | 木曽川電気製鉄株式会社を設立、取締役社長に就任              |
| 1919 | 大正8  | 矢作水力株式会社を設立、相談役に就任                   |
|      |      | 白山水力株式会社を設立、取締役社長に就任                 |
|      |      | 東海道電気鉄道株式会社を設立、取締役社長に就任              |
|      |      | 名古屋セメント株式会社を設立、取締役に就任                |
|      |      | 大阪送電株式会社を設立、取締役社長に就任                 |
| 1920 | 大正9  | 大同電力（木曽川電気興業、大阪送電、日本水力の3社が合併）設立社長に就任 |
| 1921 | 大正10 | 濃飛電気株式会社を設立、相談役に就任                   |
|      |      | 尾三水力株式会社を設立、相談役に就任                   |
|      |      | 大同製鋼株式会社を設立、社長に就任                    |
|      |      | 大同肥料株式会社を設立、社長に就任                    |
|      |      | 関西電気社長に就任、同年辞任し相談役に就任                |
| 1922 | 大正11 | 北恵那鉄道株式会社を設立、社長に就任                   |
|      |      | 東邦瓦斯（名古屋瓦斯株式会社を合併）株式会社を設立            |
|      |      | 神岡水電株式会社を設立                          |
|      |      | 名古屋セメント、佐賀セメントを豊国セメントに合併、社長に就任       |
| 1926 | 昭和元  | 天竜川電力株式会社を設立社長に就任                    |
|      |      | 帝国劇場株式会社取締役会長に就任、昭和3年辞任              |
|      |      | 昭和電力株式会社を設立し相談役に就任                   |
| 1928 | 昭和3  | 実業界からの引退を声明                          |

## 北恵那鉄道

北恵那鉄道は、大同電力が木曽川の水力開発(大井、笠木、今渡発電所など)を進めるに当たり、付知川から筏を使って御料林、神宮備林の木材輸送ができなくなることから建設された。

大同電力は、当初、森林鉄道を建設する予定であったが、地元の要望で一般乗客や貨物を取扱う鉄道を設立することとなり、1922(大正11)年に資本金200万円(大同電力50%、地元出資者50%)で設立され、福沢桃介が取締役社長に就任した。敷設工事から始まり2年後の大正13年には中津駅～下付知駅間(路線延長=22.1km)の営業を開始した。1941(昭和16)年に伊勢神宮式年遷宮のための御神木輸送を行ったりした。

### (1) 資本金の推移と北恵那交通株式会社の発足

北恵那鉄道の資本金は大同電力から日本発送電に引継がれたが、1950(昭和25)年に中津町が日本発送電からの株式を取得し資本金1,000万円とした。

その後恵那峡の遊覧船、恵那山キャンプ場など事業の拡大を図り、昭和38年に名古屋鉄道株式会社が資本参加することになり、資本金6,000万円に増資、名鉄の系列となり営業活動の拡大や合理化を行った。しかしモータリゼーションの到来で利用者が減少したことにより1978(昭和53)年に鉄道営業を廃止、翌年、北恵那交通株式会社と社名を変更した。

### (2) 大井線の開業

大井ダム建設資材運搬のため、中央線大井駅(現：恵那駅)から奥戸間に大同電

力専用鉄道として1922(大正11)に専用軌道を敷設した。北恵那鉄道は大井発電所完工後にこれを譲り受け大井線として1928(昭和



恵那峡さざなみ公園にある  
福沢桃介像と川上貞奴レリーフ



恵那峡・ダム百選



3)年に開業した。地元の乗客や恵那峡の観光客など1日9往復していたが利用客減のため1934(昭和9)年に廃止された。

### (3) 付知森林鉄道

御料林は皇室財産の森林のことで、木曽地方において江戸時代尾張藩所有の山林は新政府の官有林に移管し、皇室経済の安定を図る皇室財産とした。付知川の上流、および加子

母川、小坂川の上流一帯は裏木曾と言われ、御料林、神宮備林があった。

北恵那鉄道線が開通後、木材を効率よく運搬するため下付知駅に接続する付知森林鉄道(下付知駅から加子母村に至る総延長42. kmの4路線、軌間:762mm)が敷設されたが、1959(昭和34)年に全路線廃止された。

## 名古屋栈橋倉庫株式会社

名古屋栈橋倉庫株式会社は、当時の愛知電気鉄道㈱の関係会社の一つで土地開発を担当していた。

江戸時代、現在の名古屋市南区一帯は新田開発が行われ、その中で道德前新田は1817(文化14)年に豪農鷲尾善吉が開拓に着手、1821(文政4)年完成させた。現在、道德公園にある頌徳碑には「…今の道德北町より南は山崎川の堤／東は道德本町より西は港区の境市電南陽通りに到る125町歩の海面則ち七里の渡し以東最大の新田を文政4年完成す／その後度重なる風水害の為による度重なる堤防決壊により財政的に力尽きて／遂に債務のために尾張藩主徳川家の御納戸役に水田を差し出し／以来藩の御納戸の所領となり／この村を小納戸の新田又は道德前新田と言えり…大正14年徳川家所領新田を宅地は居住者に払い下げ／その他は栈橋会社が譲受け区画整理を行い分譲した…」と記され、偉業を称賛している。

なお、道德の由来は1812(文化9)年、それまであった御替地新田を「道德新田」と改称したことにある。御替地新田は尾張藩の方針が「道義をもって徳を施す」であったことから道德という新田名に変えたことによる。

### (1) 道德区画整理事業

名古屋栈橋倉庫は1925(大正14)年に尾張徳川家より道德前新田の土地を譲り

受けた。そして宅地造成に向けて区画整理事業を積極的に展開していった。

まず、道路をつくると同時に、電灯、上下水道、ガスの都市基盤を整備、愛知電気鉄道常滑線に道德駅駅舎の敷地を寄付した。

名古屋新聞の1927(昭和2)年6月19日の記事「新名古屋繁昌記(道德新町の巻)・東洋一を2つも呑み その上3つの誇り」の見出しで「東邦の火力発電・加福土地の貯木と、狭い地域に東洋一を2つもんでいる道德新町にまた誇るべきものが3つもある。これは最近忠臣蔵の松の廊下を撮影して一躍その名を知られた牧野プロダクションの撮影所と2万5千坪余の児童公園内にある児童歩渉池、理想的な区画整理完成である。」と記されている。

### (2) 道德公園、観音山公園などの開築

道德公園開園時には、黎明池を浚渫して



道德公園



道徳公園周辺図



道徳公園内にある鷲尾善吉頌徳碑



公園内にあるコンクリート製のクジラ

できた月見池、地元のコンクリート職人・後藤鎌五郎が制作したクジラ池などがあった。

昭和8年に観音山公園が造られた。鉄筋

コンクリートによる人口の山で、高さ約15mほどであったが、当時は視界を遮るものがなく眺望のきく場所であった。内部は2層になっており、1階は100坪のスケートリンク、2階は喫茶店とダンスホールがあった。頂上には約6mの道徳観音が祀られていた。このほか泉楽園、劇場、料理屋、活動常設館などの娯楽施設もあり、大須に匹敵する繁華街が形成されていた。

### (3) マキノ・プロダクション中部撮影所

1927(昭和2)年5月にマキノ・プロダクション東海撮影所が名古屋市南区道徳新町に建設された。日本映画界の父と呼ばれる牧野省三の長男・マキノ正博が撮影所長に就任した。牧野省三は監督として超大作「忠魂義烈実録忠臣蔵」の撮影を開始した。6月の「松の廊下」の公開撮影時には5,000人ももの招待者、見物人が集まったと報道された。しかし、翌年3月、京都にあった牧野の自宅で編集中のフィルムから発火、牧野本家が全焼したのを機に、マキノ・プロダクションの経営が急速に悪化、同撮影所を京都に移転し撤退した。

その後、牧野作品の興行に携わってきた竹本商会が東海映画撮影所の看板を掲げスタジオをレンタルして映画を制作したが、1931(昭和6)年に閉鎖された。その後、1940(昭和15年)名古屋市立道徳小学校、1947(昭和22)年に大江中学校が建設された。

このように道徳地区における住宅地開発は電鉄会社の乗客増加策だけでなく社会的事業として進められ1964(昭和39)年に解散した。

(寺澤 安正)